

余市町人口ビジョン 概要版

I. 余市町人口ビジョンの位置付け

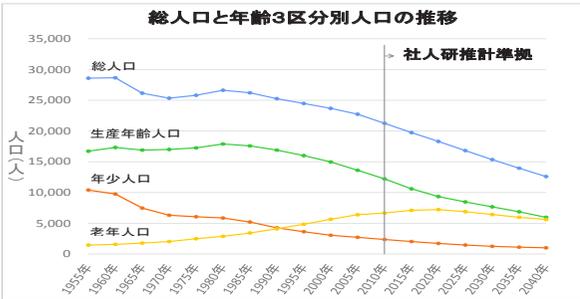
余市町人口ビジョンは、まち・ひと・しごと創生法（平成 26 年法律 136 号）に基づき、本町の総合戦略を策定するにあたり、まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を企画立案する上で、重要な基礎と位置付けるものです。

本人口ビジョンは、本町の人口の現状を分析し、町民に対して情報を提供することにより、人口減少に関する認識の共有を目指すとともに、今後の目指すべき将来の方向と人口の将来を展望するものとして策定します。

III. 人口の現状分析

○総人口の減少と年齢構造の変化

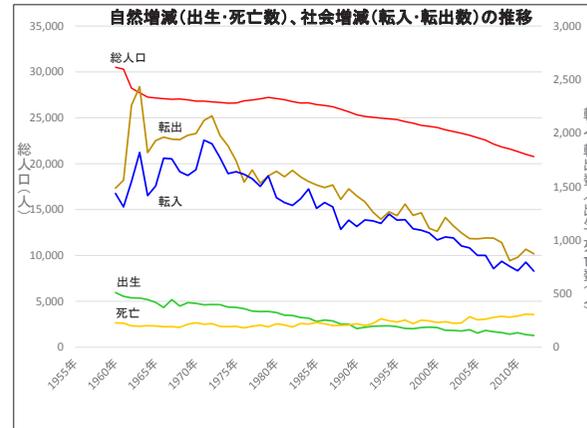
- ・2040 年には総人口が約 60%に減少
- ・少子高齢化が加速度的に進行
- ・生産年齢人口がピーク時の 1/3 程度に減少



	2010 年	2040 年
総人口	21,258	12,604
生産年齢人口	12,215	5,969
年少人口	2,371	1,011
老年人口	6,672	5,624

○「自然減」「社会減」が同時発生

- ・死亡数が出生数を上回る「自然減」
- ・転出数が転入数を上回る「社会減」
- ・この結果、人口減少が確実に進行

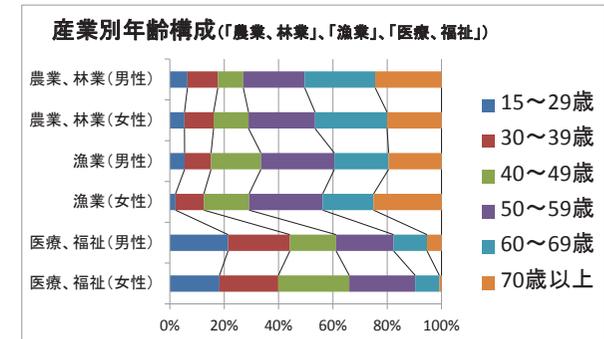


II. 余市町人口ビジョンの対象期間

国の長期ビジョンの期間（2060 年）が基本となることから、本町においても同年までの将来人口推計を行い、中でも中期的（2040 年）な将来人口推計に重点を置くこととします。

○基幹産業の高齢化

- ・農業、漁業就労者の高齢化が進行
- ・就労者の 7 割が 50 歳以上
- ・他の産業より顕著な現状



IV. 人口の将来展望

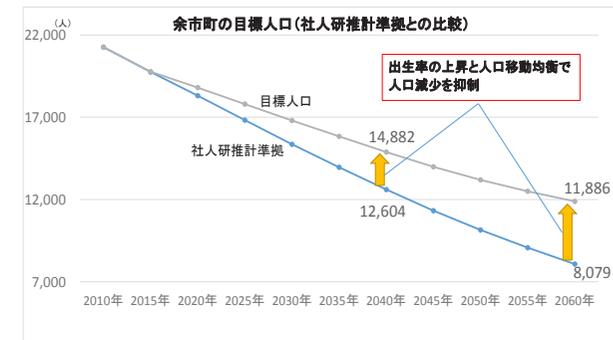
①人口減少の影響

- 「ひと」
 - ・人口減少、合計特殊出生率の低迷、高齢化
 - ・若年層の転出
- 「しごと」
 - ・生産年齢人口の減少
 - ・第一次産業における高齢化の進行
- 「まち」
 - ・地域コミュニティの衰退
 - ・教育への影響
 - ・サービス・利便性の低下

②人口減少の抑制に向けて

- 自然減の抑制
 - ・出産・子育てしやすい環境をつくる
 - ・出産・子育て世代の移住・定住を促進し、出生数の増加を図る
- 社会減の抑制
 - ・雇用の場の創出につながる施策を展開し、町外への人口の流出の抑制、町外からの流入増加を図る
 - ・都市部などからの交流人口や転入者の増加を図る

◀将来の目標人口推計▶



余市町の目標人口

- ・自然増減：合計特殊出生率を 2030 年に 1.8（国民希望出生率）まで上昇、以降継続
- ・社会増減：人口移動を均衡（転入・転出が同数）させる

2040 年に約 15,000 人程度
2010 年の 70%程度の人口規模を維持